

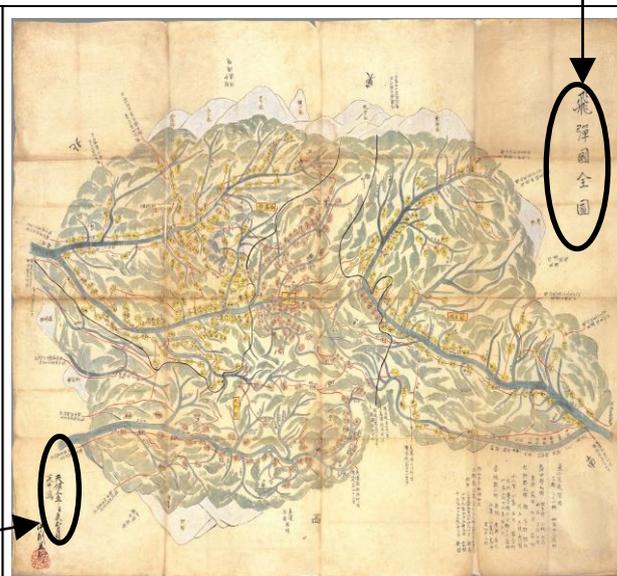
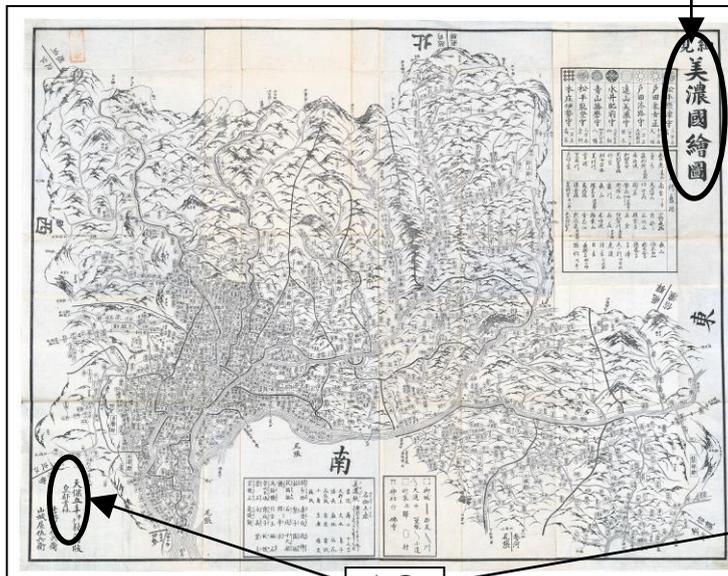
授業で使える当館所蔵地図

No. 37-① 『細見美濃国絵図』
 発行年：1834（天保5）年
 サイズ：89×116cm
 作者：吉野屋仁兵衛・山城屋佐兵衛（版）

No. 37-② 『飛騨国全図』
 発行年：1832（天保3）年
 サイズ：83×110cm
 作者：中州美郷手写

★1

★2



【解説】

上の地図2枚は、江戸時代に描かれたものである。この地図と現在の地図を比較すると、昔と今の地域区分や市町村名の相違点について知ることができる。かつて岐阜県は、今のように一つの県として存在したのではなく、明治時代の廃藩置県まで、飛騨国と美濃国の2つに分かれていた。これは現在でいう飛騨地方、美濃地方という区分の仕方由来するものである。さらに、地図には、国名の中に郡名、村名が詳細に記されている。現在の地名との比較から、地名の由来について探る契機を与えてくれる。

★1 美濃国

「ミノ（三野・三乃・美濃）」は、「みののくにのみやつこ」もしくは「みのこくぞう」と読む「美濃国造」の本拠地（本美市見延＝みのべ）に由来するとされる。「みのべ」とは、糸貫川の沿岸を意味する「水辺」のことと考えられる。

現在、美濃地方には、「ミノ」の地名がつく場所がいくつかある。

- ・ 恵那市武並町美濃
- ・ 恵那市上矢作町水辺（みのべ）
- ・ 可児市東帷子美濃田

など

古代律令制の時代には、「美濃国」を示すものとして「三野国」と書かれた木簡が多く出されている。青野（現：大垣市青野）、加茂野（現：美濃加茂市）各務野（現：各務原市）の三つの野から「三野国」と称されているのではないかという説もあるが、漢字の表記のみにこだわったもので信憑性は薄いとされる。



2万5千分の1地形図「北方」 H28発行

*この地図は、国土地理院の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。

（承認番号 平29情複、第1302号）

★2 飛騨国

古くは「斐太」や「斐陀」と表記された。古代の日本では、三関といわれた鈴鹿関、^{すずかの}愛発関、^{あらかちの}不破関より東は、蝦夷（ひな）の割拠する「蝦夷地」であったと考えられている。その蝦夷（ひな）を強く発音すると「ひだ」になったとされている。

飛騨の山々の巒（ひだ）に由来するという説もあるが、「ひだ」という発音に惑わされたものではないかとされる。

★3 天保

日本の元号の一つ。文政の後、弘化の前。1830年から1844年までの期間を指す。江戸幕府将軍は徳川家斉（11代）、徳川家慶（12代）が務めた。享保の改革、寛政の改革と並んで、江戸時代の三大改革の一つに数えられる天保の改革が行われた。老中水野忠邦が、幕府財政の再興を目的として行った時代である。

【用語について】

・ 國繪圖（国絵図）

近世の豊臣政権、江戸幕府が諸大名らに命じて作成・提出させた一国単位の絵図。1591年、豊臣秀吉が禁裏に献納するという名目で、日本全国の国絵図と御前帳（検地帳）を諸大名らに命じて作成・提出させたことに始まる。

江戸幕府は、主要大名に命じて作らせた国絵図は、慶長国絵図（1604～）、寛永国絵図（1633～）、正保国絵図（1644～）、元禄国絵図（1697～）、天保国絵図（1835～）と呼ばれる5種類があるといわれている。これらの国絵図を元に、一般に流布した刊行国絵図（版行図）も出版され、それらは『細見美濃国絵図』などのように固有のタイトルを持っていた。

【活用の例】

紹介した地図は、地図は小学3年「学校のまわりのようす」、小学6年「江戸時代から明治時代」、中学校歴史的分野の学習において、現在の地図と比較して活用すると効果的である。

○当時の村名を知る契機となる。

→ 現在、子どもたちが住んでいる地名があるか探してみることで、少なくとも何年前からその地名があるのかを調べたり、確かめたりする。

例①：「今尾（現：海津市平田町今尾）」は、美濃国の地図にもあった。1834年には「今尾」という名前の地名は存在したことがわかる。

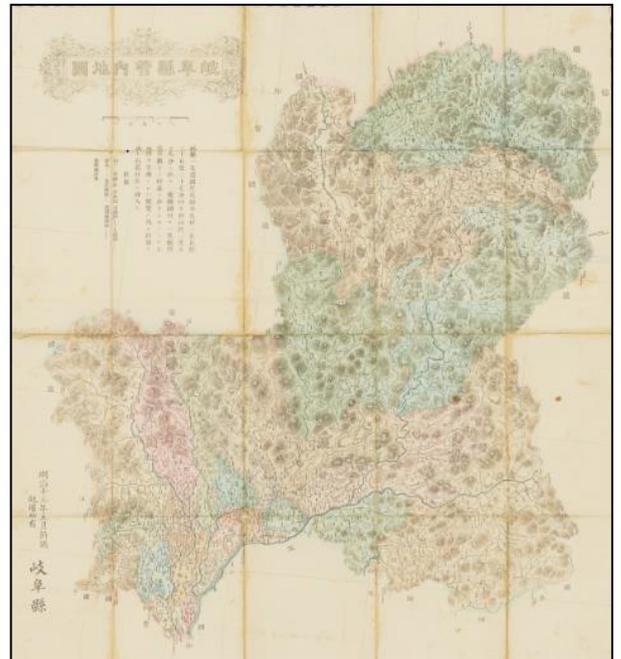
例②：「羽島市」は、美濃国の地図には、名前として存在していない。いつから羽島という名前ができたのか調べてみたい。

実際に調べてみると、「羽島」の由来は、1897年に、羽栗郡の「羽」と中島郡の「島」を合わせてできた名前であることが分かる。また、今は羽島郡岐南町、羽島郡笠松町、羽島市となっており、羽島市は1929年に誕生したことがわかる。

○廃藩置県の様子を知ることができる。

→ 前に示した天保年間に作成された2枚の地図と、右に示す「岐阜県管内地図（岐阜県編・出版、明治13年、20万分の1）」を比較することで、江戸時代末期から明治初期の廃藩置県によってどのような変化があったのか、調べたり、確かめたりする。

実際に、No. 1 『美濃国大絵図』の右上にある美濃国の大名から、江戸幕府は、美濃を大垣藩の10万石の他、苗木藩、岩村藩、八幡藩、高富藩、加納藩、今尾藩、高須藩に分けていたことが確認できる。その後、明治政府は、近代化政策の一環として藩を廃止し、県を単位とした行政区分に転換した。その結果、「岐阜県管内地図」に示すように、飛騨国と美濃国を統合するかたちで岐阜県となったことがわかる。



【参考文献】

- ・ 山内 和幸『地名由来 飛騨・美濃』 2014年 まつお出版
- ・ 『日本歴史地名体系第二巻 岐阜県の地名』 1989年 平凡社
- ・ 川村博忠『国絵図』 1991年 吉川弘文館